

記入例

様式第 3 号（第 6 条関係）

協働事業企画書

団体名 酒田湊会

事業名	さかた公益の仲間づくり事業 (1 年目)	
総合計画上の位置づけ	1-1 市民参加があふれ、協働が広がる公益のまち 施策3 市民活動の支援	
想定される担当課	共生社会課	
他団体等(行政以外)の協働の可能性の有無	有 ・無 ※有の場合の団体()	
事業の概要	現状・課題(社会的課題)	人口減少、超高齢社会によって、地域の課題は多様化してきている。その解決のためには、市民による自発的な公益活動が重要となってきた。
	目的・必要性	酒田を魅力的な公益のまちとしていくためには、市民の自発的な公益活動は重要であり、活動を実践する層を増やしていくことが必要である。
	内容(人数、対象者等)	ボランティア・公益活動を実践する市民を増やすために、そのきっかけとなる体験企画や、シンポジウムの開催を検討する。
	成果目標(数値目標)	・シンポジウムへの参加者 20名以上 ・シンポジウム後の参加者のボランティア参加率(シンポジウムの3カ月後アンケート実施) 80%
	実施期間	〇〇年〇〇月〇〇日～ 〇〇年〇〇月〇〇日
	事業予算	事業費総額 200,000 円 (自主財源 40,000 円 市負担金 160,000 円)
	事業スケジュール	1 年目 市担当課と事業の企画 2 年目 事業の実践(年内に2回は企画実施) 事業の振り返り

記入例

	<p>アピールポイント</p>	<p>長年に渡る活動経験によって、ボランティアを身近に感じることでできる有意義な企画を実現できる。</p>
	<p>将来展望 (今後の計画性・継続性)</p>	<p>本事業をきっかけに、ボランティア・公益活動に関心を持った方たちが、活動を始めていくことで、市内全体で活動の広がりが見込まれる。</p>
協働	<p>協働の必要性</p>	<p>行政が協働することで、広報力と信用が付与されることにより、より多くの参加者が集まることが期待できる。複数の主体が関わることで、より質の高い企画が立案できる。</p>
	<p>役割分担</p>	<p>【団体の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画立案、事業運営 ・ 広報への協力
		<p>【行政の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画立案、事業運営の補助 ・ 広報の実施 ・ 会場の斡旋
	<p>協働による効果(メリット)</p>	<p>【協働によって得られる相乗効果】 それぞれのネットワークを活かして、多くの層に周知をすることができる。 行政側としては、現場での活動を知り、理解を深める機会となる。</p>
		<p>【団体にとってのメリット】 団体単独で実施した際に比べて、多くの参加者を集められることが期待できる。</p>
		<p>【市にとってのメリット】 市総合計画で掲げられている、ボランティア活動に取り組んだ市民の数を増やすことに資する取り組みとなることが見込まれる。</p>
<p>【市民・社会にとってのメリット】 市民の草の根の公益活動が広がることにより、酒田をより魅力的なまちにすることにつながる。</p>		